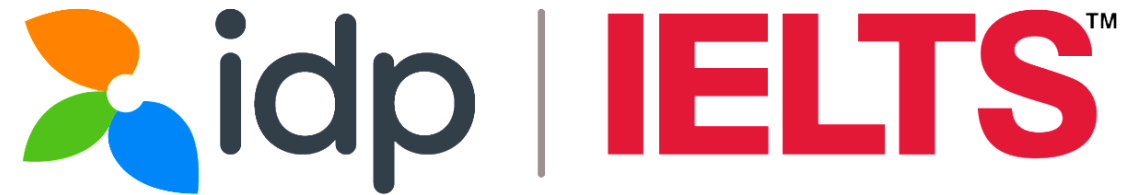


資料2-3 前田氏提出資料

大学入試のあり方に関する検討会議（第11回） R2.7.7

「大学入試のあり方に関する検討会議」 IDP資料



令和2年7月7日

IDP : IELTS Australia

IELTS業務管理日本統括責任者

前田 剛

1. 共通項目関連事項

前提として、IDPとしては文部科学省から発表されている「高大接続改革」の考え方の中にある「学力の3要素」の育成・評価の点において、IELTSを通じて国に貢献できると考えている

＜以下、文部科学省のサイト内「高大接続改革」に関わる質問と回答より抜粋＞

グローバル化の進展や人工知能技術をはじめとする技術革新などに伴い、社会構造も急速に、かつ大きく変革しており、予見の困難な時代の中で新たな価値を創造していく力を育てることが必要です。このためには、

『学力の3要素』（1. 知識・技能、2. 思考力・判断力・表現力、3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）を育成・評価することが重要であり、義務教育段階から一貫した理念の下、「学力の3要素」を高校教育で確実に育成し、大学教育で更なる伸長を図るため、それをつなぐ大学入学者選抜においても、多面的・総合的に評価するという一体的な改革を進めていく必要があります。

参照: 文部科学省ホームページ「https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/koudai/detail/1402115.htm」より引用

2.個別項目関連事項

＜英語によるコミュニケーション能力及び思考力・判断力・表現力の育成・評価＞

- IELTSは英語圏における留学、就労に必要な英語のスキルを計るテストであり、国内においても将来的にグローバル企業で働くことを希望している人材に求める英語力の評価に適している。
- 多様化するグローバル時代で日本人が活躍するために必要なスキルは英語力の他にもコミュニケーション力、思考力、判断力、表現力、問題分析力、問題解決力など多岐にわたる。
- IDP主催のセミナーなどでのアンケートにおいて、4技能の中で日本人が一番苦手を答えたのは「スピーキング」、次いで「ライティング」である。以下、この2つの技能に関してIELTSではどのように行われ、評価がされているのかを考察する

IELTSTM を通して培える英語力 + α

1 問題分析力

リーディングやリスニングでは、多様な意見や大量の情報が交錯するなか、主題を理解し、回答に必要なポイントを理解するための問題分析力が必要

2 プレゼンテーション力

ライティングとスピーキングでは、分析した情報や自分の意見を、的確かつ簡潔に文章や口頭で表現するプレゼンテーション力が試される

3 ブレーンストーミングスキル

ライティングとスピーキングの出題のテーマに対して自分の考えや、関連知識、情報を書き出し、論理的にまとめる力が鍛えられる

4 4技能を統合的に使う力

実際に英語を使う場面を想定し、読む・書く、聞く、話す技能を複数使いながら解答する力が求められる



英語での学びとグローバルな仕事で
必要なスキルが身につく試験

スピーキングテストにおける内容と評価基準

Speaking



11 - 14 分

3 パート



面接官との1対1のスピーキングテスト

Part 1: 受験者自身についての話(3 分)

Part 2 : 身近なテーマについて、1分間準備
2分以内でスピーチ (3分)

Part 3: Part 2に関連したディスカッション
(4 - 5分)

Speaking how you'll be scored

25%
発音

25%
文法知識と正確さ

評価基準



25%
流暢さと一貫性



25%
語彙力

スピーキング評価基準

段階評価	流暢さと一貫性	語彙力	文法知識と正確さ	発音
9	- 繰り返しや言い直しをほぼすることなく流暢に話し、言いよどみ際は、言葉や文法を考へるというより、内容が理由の場合のみである。 - 最も適切な接続詞を使用して理路整然と話すことができる。 - テーマを幅広く適切に展開できる。	- 全てのテーマにおいて、非常に柔軟かつ正確に語彙を使用できる。 - 熟語を自然かつ正確に使用できる。	- 様々な構文を柔軟に使用できる。 - ネイティブスピーカーの会話に見られるような「うっかり」を除き、総じて正確な構文が使用できる。	- 幅広い発音の特性を柔軟に使用できる。 - 特性を一貫して柔軟に使用できる。 - 無理なく理解できる。
8	- 時折繰り返しや言い直しをするが流暢に話し、言いよどみ際は、言葉や文法を考へるというより、内容が理由の場合のみである。 - テーマを理路整然と適切に展開できる。	- 正確な意味を伝達するために幅広い語彙をすぐに柔軟に使用できる。 - 不正確さも散見されるが、一般的でない熟語もうまく使いこなすことができる。 - 必要に応じて言い換えができる。	- 様々な構文を柔軟に使用できる。 - 不適切さや軽微な／非体系的な間違いがまれに見られるが、総じて間違いのない文章を話せることができる。	- 幅広い発音の特性を使用できる。 - 特性を柔軟に使用できるが、時おりうっかり間違えることもある。 - 無理なく理解でき、L1 アクセントが明確さに与える影響はほぼない。
7	- 自立的な努力を行わずもしくは一貫性を失わずに詳細に話すことができる。 - 言葉が理由で時折言いよどみることがあり、繰り返しや言い直しがある。 - 幅広い連結詞や熟語・慣用語(文と文との論理的関係を示すことば)を柔軟に使用できる。	- 様々なテーマを論じる際に柔軟に語彙を使用できる。 - 一般的でない熟語も使用でき、表現や単語同士の組み合わせにも配慮できるが、不適切な選択をする場合もある。 - 必要に応じて効果的に言い換えを行える。	- ある程度の柔軟性を持って幅広い複雑な構文を使用できる。 - 間違いの全くない文章を話せることも多いが、文法エラーは依然として存在する。	バンド6の全てのプラスの特徴と、バンド8のプラスの特徴を部分的に備えている。
6	- 時折繰り返し、言い直し、ためらいが見られ、そのため一貫性を失うことがあるものの、すすんで詳細に話す。 - 幅広い連結詞や熟語・慣用語を使用できるが、不適切な使用もある。	- テーマについて詳細に論じることができる幅広い語彙力を持っており、不適切な場合でも意味を明確にすることができる。 - 概ね正しく言い換えができる。	- 柔軟性に欠けるが、簡単な構文と複雑な構文の両方を使用できる。 - 複雑な構文では間違いも多いが、理解に支障の出るようなことはめったにない。	- 幅広い発音の特性を使用できるが、コントロールは不安定。 - 特性を効果的に使用できる場合もあるが、一定していない。 - 概ね理解しやすいが、個々の単語の発音の間違いや不明瞭な音が時おり混じる。
5	- 通常は途切れることなく話せるが、繰り返し、言い直し、ためらいが見られ、かつ／または、話し続けようとするとスピードが落ちる。 - 特定の連結詞や熟語・慣用語を適度に使用する。 - 簡単な話は流暢だが、複雑なコミュニケーションとなると流暢さに問題がみられる。	- 身近なテーマ、そうでないテーマについても話せることができるが、語彙の使用は柔軟性に欠ける。 - 言い換えが正しくできるときとそうでないときがある。	- ある程度の正確さで基本的な構文を作成できる。 - 複雑な構文の使用は限定的で、たいてい間違いが含まれており、理解の障害となることもある。	バンド4の全てのプラスの特徴と、バンド6のプラスの特徴を部分的に備えている。
4	- 顕著な間隔なしには受け答えができず、話す速度が遅く、繰り返しや言い直しが多々ある。 - 基本的な文章をつなげることができるが、簡単な連結詞を多用し、一貫性が維持できない。	- 身近なテーマについては話せることができるが、そうでないテーマは基本的な意味のみ伝えることができる。 - 言葉の選択にも間違いが多い。 - 言い換えはめったにしない。	- 基本的な構文を作成でき、単純な文章には間違いがないが、複雑な構文はめったにない。 - 間違いも多く、誤解につながることもある。	- 発音の特性の使用は限定的。 - 特性をコントロールしようとするが、よく失敗する。 - 発音の間違いが多く、聞き取りが困難な場合もある。
3	- 途切れ途切れに話す。 - 簡単な文章をつなげる能力に限界がある。 - 簡単な受け答えのみができ、基本的なメッセージを伝えることさえできないことが往々にしてある。	- 個人的情報を伝える際に簡単な語彙を使用できる。 - 余り身近でないテーマについては、語彙不足である。	- 基本構文を試みても困難であったり、明らかにうる覚えの表現に頼ってしまう。 - 暗記表現以外は、間違いが非常に多い。	バンド2のいくつかの特徴と、バンド4のプラスの特徴を部分的に備えている。
2	- 言葉の前にたいてい長い間隔があく。 - コミュニケーションがほとんど取れない。	片言もしくは覚えた言葉のみを話す。	基本構文を作成できない。	話し言葉が不明瞭なことが多い。
1	- コミュニケーションが全く取れない。 - 評価できる言葉を発しない。			
0	受動をしていない。			

参照: <https://ieltsjp.com/get-ielts-results/ielts-bandscores/>

ライティングテストの内容及び評価基準

Writing



60分
2 タスク



TASK 1 (150語以上)
グラフや図表などの視覚的な
情報をもとに、
その情報を説明する

TASK 2 (250語以上)
トピックについて自分の意見や
考えを述べる

Writing how you'll be scored


25%
文法の幅広さと
正確さ


25%
語彙の豊富さと
適切さ

評価基準



25%
タスクの達成



25%
論理的・一貫性
とまとまり

採点評価	課題の達成度	一貫性とまとまり	語彙力	文法知識と正確さ
9	・ 課題の要件を完全に満たしている ・ 詳細説明を含む回答が明確に記述されている	・ 目立つことなく自然に接続詞を使用している ・ 段落分けをうまく行っている	・ 幅広い語彙を単語の特徴を生かして自然かつ流暢な方法で使用でき、軽微な誤りがまれに「うっかり起こる」	・ 様々な構文を非常に柔軟かつ正確に使いこなすことができ、まれに軽微な誤りが「うっかり起こる」
8	・ 課題の要件を十分にカバーしている ・ 明確かつ適切に重点/要点を記述、強調、説明できている	・ 情報や意見が論理的に配置している ・ 全ての観点から文章を上手にまとめている ・ 段落分けを十分かつ適切に行っている	・ 正確な意味を伝達するために幅広い語彙を流暢かつ柔軟に使用できる ・ 一般的でない語句をうまく使用できるが、単語の選択や組み合わせに時々不適切さがみられる ・ 単語のスペルや語形成(またはその両方)に間違いがほとんどない	・ 様々な構文を使用できる ・ 総じて間違いのない文章を書くことができる ・ 間違いや不適切さがまれに見られる
7	・ 課題の要件をカバーしている ・ (A)主要動向、意見、段落の明確な要旨が記述されている ・ (G)意図が明確に記述されており、統一性のある適切な文脈になっている ・ 重点/要点が明確に記述され、強調できているが、詳細の余地がある	・ 情報や意見が論理的に整理されており、全体を通じ明確な連続性がある ・ 適切に様々な接続詞を使用しているが、使用の仕方に適不足がみられる	・ 十分に幅広い語彙を使用でき、柔軟性や正確さも認められる ・ 一般的でない語句を使用でき、表現や組み合わせにも配慮している ・ 単語の選択・スペルや語形成(またはその両方)に間違いが散見される	・ 様々な複雑な構文を使用できる ・ 間違いの全くない文章を書けることが多い ・ 文法と句読点をうまく使いこなすが、エラーは依然として存在する
6	・ 課題の要件に取り組んでいる ・ (A)適切に選択された情報を含む要旨が記述されている ・ (G)文脈に統一性が見られない場合もあるが、概ね明確に意図を記述している ・ 重点/要点を記述し、十分に強調できているが、詳細部分が関連性を欠いたり、不適切であったり、不正確であったりする	・ 情報や意見の配置に一貫性があり、概ね明確な連続性がある ・ 接続詞を効果的に使用しているが、文章中や文章間(またはその両方)の接続詞が機能していないかったり、機械的であったりする ・ 参照が明確でなかったり、適切でなかったりする	・ 課題に対する十分な範囲の語彙を使用できる ・ 一般的でない語句の使用を試みるが、不正確さがみられる ・ 単語の選択・スペルや語形成(またはその両方)に間違いが散見されるが、コミュニケーションを阻害するほどではない	・ 簡単な構文と複雑な構文の両方を使用する ・ 文法と句読点に間違いもあるが、コミュニケーションに支障の出るようなことはめったにない
5	・ 課題の要件に大体取り組んでいるが、所々の書式が不適切であったりする ・ (A)明確な要旨がなく機械的に詳細を記述し、記述を書けるデータが含まれていない ・ (G)手紙は時おり不明瞭であるが意図が記述されている、文脈に統一性がなく、不適切な箇所もある ・ 重点/要点を記述しているが、十分にカバーしきれず、詳細にこだわる傾向がある場合もある	・ 情報がある程度整理されて記述されているが、全体的な連続性を欠く ・ 接続詞の使用が、不十分であったり、不適切であったり、多用すぎであったりする ・ 参照や置換が不十分のために重複が見られる場合もある	・ 語彙の使用範囲は限定的であるが、課題に最低限必要なレベルである ・ スペルや語形成(またはその両方)にかなりの間違いが見られ、読み手の理解が困難な場合もある	・ 複雑な構文の使用は限定的である ・ 複雑な構文の使用も試みるが、簡単な構文と比較して不正確になるせらいがある ・ 文法や句読点の間違いが多く、間違いのため読みづらいこともある
4	・ 課題の要件に取り組もうとしているが、重点/要点をカバーしきれず、書式が不適切であったりする ・ (G)手紙の意図を明確に説明できておらず、文脈が不適切な場合もある ・ 重点/要点と詳細を区別できていない場合もあり、不明瞭、無関連、重複、不正確な部分がある	・ 情報や意見は記述されているが、一貫性を持って配置されておらず、回答に明確な連続性を欠く ・ 基本的な接続詞が使用されているが、不正確であったり、重複していたりする	・ 基本的な語彙のみを重複して使用したりし、課題に不適切な場合もある ・ スペル、語形成(またはその両方)の使用は限定的である ・ 間違いが読み手に負担を与える場合がある	・ 極めて限定的な構文の使用で、複文構成はめったにない ・ 正確な構文もあるが、間違いが多見され、句読点にも間違いがある
3	・ 課題の要件に取り組めず、課題を全く理解できていない場合もある ・ 十分に意見を記述できておらず、大半が関連性がない/重複である	・ 意見を論理的に整理できていない ・ 接続詞の使用は非常に限定的で、使用している場合でも、意見間に関係を示すことができていない	・ 使用する語彙と表現が極めて限定的で、語形成やスペル(またはその両方)をうまく操作できない ・ 間違いによってメッセージが大きく歪曲される	・ 文章の構成を試みるが、文法と句読点の間違いが多見され、意味が歪曲されてしまう
2	・ 回答がほとんど課題と関連性がない	・ 文章を整理する能力がほとんどない	・ 極端に限定的な語彙で、基本的に語形成やスペル(またはその両方)をうまく操作できない	・ 暗記しているフレーズ以外に文章構成ができない
1	・ 回答が課題と全く関連性がない	・ メッセージのコミュニケーションができていない	・ 片言の言葉しか使用できない	・ 文章構成が全くできない
0	・ 暗記した回答を記述している			

採点評価	課題への回答	一貫性とまとまり	語彙力	文法知識と正確さ
9	・ 課題の全ての部分に完全に取り組んでいる ・ 回答に対し、関連性のある、詳細で十分な裏づけのある理由を提示し、確固とした見解を示すことができる	・ 目立つことなく自然に接続詞を使用している ・ 段落分けをうまく行っている	・ 幅広い語彙を単語の特徴を生かして自然かつ流暢な方法で使用でき、軽微な誤りがまれに「うっかり起こる」	・ 様々な構文を非常に柔軟かつ正確に使いこなすことができ、まれに軽微な誤りが「うっかり起こる」
8	・ 課題の全ての部分に十分に取り組んでいる ・ 回答に対し、関連性のある、詳細で十分な裏づけのある理由を提示し、熟考された回答ができています	・ 情報や意見を論理的に配置している ・ 全ての観点から文章を上手にまとめている ・ 段落分けを十分かつ適切に行っている	・ 正確な意味を伝達するために幅広い語彙を流暢かつ柔軟に使用できる ・ 一般的でない語句をうまく使用できるが、単語の選択や組み合わせに時々不適切さがみられる。単語の選択や語形成(またはその両方)に間違いがほとんどない	・ 様々な構文を使用できる ・ 総じて間違いのない文章を書くことができる ・ 間違いや不適切さがまれに見られる
7	・ 課題の全ての部分に取り組んでいる ・ 回答全体を通じ総じて明確な見解を示すことができている ・ 主旨を示し、詳細と理由を提示できるが、一般化しすぎたり理由の論旨が明快ではなかったりする(またはその両方である)	・ 情報や意見を論理的に整理しており、全体を通じ明確な連続性がある ・ 様々な接続詞を適切に使用しているが、使用の仕方に適不足がみられる ・ 各段落には明確な中心主題が存在している	・ 十分な幅の語彙を使用でき、柔軟性や正確さも認められる ・ 一般的でない語句を使用でき、表現方法や組み合わせにも配慮している ・ 単語の選択・スペルや語形成(またはその両方)に間違いが散見される	・ 様々な複雑な構文を使用できる ・ 間違いの全くない文章を書けることが多い ・ 文法と句読点をうまく使いこなすが、エラーは依然として存在する
6	・ 課題の全ての部分に取り組んでいるが、詳述されている部分とそうでない部分がある ・ 関連性のある見解を示すことができるが、結論が不明確もしくは重複していたりする ・ 関連性のある主旨を示すことができるが、詳細に欠けたり、不明瞭であったりする	・ 情報や意見の配置に一貫性があり、概ね明確な連続性がある ・ 接続詞を効果的に使用しているが、文中や文章間(またはその両方)の接続詞が機能していなかったり、機械的であったりする ・ 参照が明確でなかったり、適切でなかったりする ・ 段落分けがされているが、必ずしも論理的ではない	・ 課題に対する十分な範囲の語彙を使用できる ・ 一般的でない語句の使用を試みるが、不正確さがみられる ・ スペルや語形成(またはその両方)に間違いが散見されるが、コミュニケーションを阻害するほどではない	・ 簡単な構文と複雑な構文の両方を使用する ・ 文法と句読点に間違いもあるが、コミュニケーションに支障の出るようなことはめったにない
5	・ 課題の一部にのみ取り組んでおり、所々の書式が不適切であったりする ・ 見解を表明しているが、展開が不明瞭であったり、結論が記述されていないこともある ・ 要旨が記述されているが、限定的であり、展開が不十分で、無関係な詳細が含まれていることもある	・ 情報がある程度整理されているが、全般的な連続性を欠く ・ 接続詞の使用が不十分であったり、不適切であったり、多用すぎであったりする ・ 参照や置換が不十分のために重複が見られる ・ 段落形式で記述されていなかったり、されていても不十分であったりする	・ 語彙の使用範囲は限定的であるが、課題に最低限必要なレベルである ・ スペルや語形成(またはその両方)にかなりの間違いが見られ、読み手の理解が困難な場合もある	・ 複雑な構文の使用は限定的である ・ 複雑な構文の使用も試みるが、簡単な構文と比較して不正確になるせらいがある ・ 文法や句読点の間違いが多く、間違いのため読みづらいこともある
4	・ 課題の要件には最低限しか取り組んでおらず、回答が的外れで、形式も不適切であったりする ・ 見解を記述しているが不明瞭である ・ 要旨を記述しているが、特定することが困難であったり、重複、無関係、理由づけが不十分であったりする	・ 情報や意見は記述されているが、一貫性を持って並べられておらず、回答に明確な連続性を欠く ・ 基本的な接続詞が使用されているが、不正確であったり、重複していたりする ・ 段落形式で記述されていなかったり、されていても混濁している	・ 極めて限定的な構文の使用で、複文構成はめったにない ・ 正確な構文もあるが、間違いが多見され、句読点にも間違いがある	・ 極めて限定的な構文の使用で、複文構成はめったにない ・ 正確な構文もあるが、間違いが多見され、句読点にも間違いがある
3	・ 課題のどの部分にも十分に取り組んでいない ・ 明確な見解を示していない ・ ほとんど意見の配置がなく、多くが詳細と関連性を欠く	・ 意見を論理的に整理できていない ・ 接続詞の使用は非常に限定的で、使用している場合でも、意見と意見の間に論理的な関連性を示すことができていない	・ 使用する語彙と表現が極めて限定的で、語形成やスペル(またはその両方)をうまく操作できない ・ 間違いによってメッセージが大きく歪曲される	・ 文章の構成を試みるが、文法と句読点の間違いが多見され、意味が歪曲されてしまう
2	・ 課題にほぼ回答していない ・ 見解を示していない ・ 意見をひとつみつつ配置しようとしているが、詳細が記載されていない	・ 整理する能力がほとんどない	・ 極端に限定的な語彙で、基本的に語形成やスペル(またはその両方)を操作できない	・ 暗記しているフレーズ以外に文章構成ができない
1	・ 回答は課題と全く関連性がない	・ メッセージのコミュニケーションができていない	・ 片言の言葉しか使用できない	・ 文章構成が全くできない
0	・ 受動していない ・ 課題に取り組んでいない ・ 暗記した回答を記載している			

思考力・判断力・表現力の育成・評価の重要性

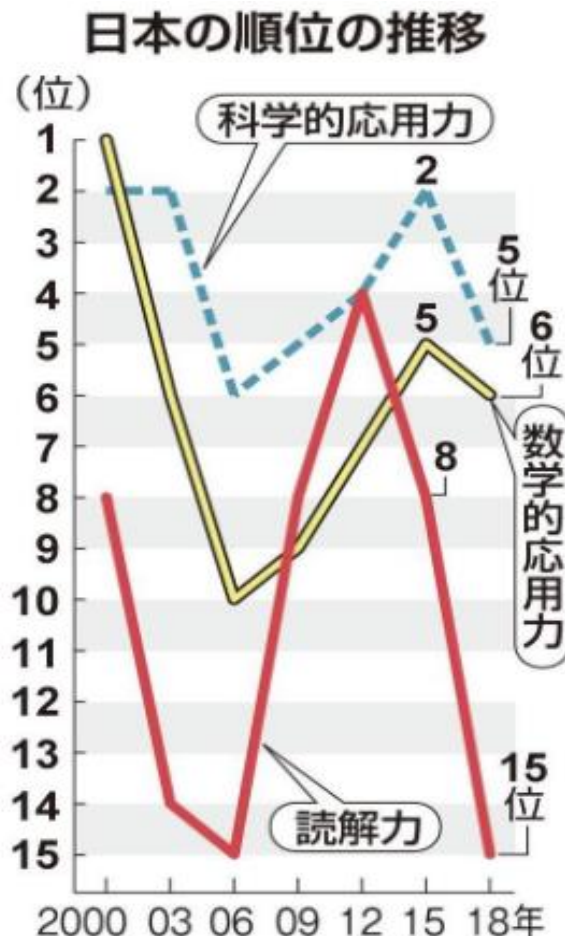
経済協力開発機構（OECD）は3日、世界79カ国・地域の15歳を対象として2018年に実施した国際学習到達度調査（PISA）の結果を公表した。

日本は読解力が前回（15年調査）の8位から15位と大きく後退した

（中略）

文科省によると、全体の約3割を占める自由記述式の問題で得点が伸び悩んだといい、正答率がOECD平均を2割近く下回った問題もあった。文科省担当者は「自分の考えを他者に伝えるよう、根拠を示して説明することに課題がある」と分析している。

（令和元年12月3日付 産経新聞より一部抜粋）



ただ、ほとんどのメディアでは「読書が不足している＝本を読まなくなった」等の課題があげられているが、そもそもこの国際学習到達度（PISA）によると。。。

文章や資料などから情報を理解・評価し、考える力を問う「読解力」とあり。。。

つまりは「思考力・考える力」が不足している

日本語で

自分の考えや意見が言えなければ

英語でも言えない

＝大前提である

<障害者への配慮についてどう考えるか>

IELTSは原則すべての障害者への配慮を行っている

(関連リンク: <https://ieltsjp.com/test-guide/special-requirements/>)

<諸外国で参考になる事例はあるか>

- IELTSは30年に渡って世界中で試験を実施している。IELTSの受験者が増加の一途を辿っている理由は、その国際的な認知度の高さにある。世界で350万以上の人々が受験し、IELTSを認定している機関は世界中に10,000以上あり、IELTSは教育や移住のための英語能力判定試験としてグローバルに認知されている。
- 米国、オーストラリア、ニュージーランド、カナダ、イギリスの大学などの教育機関を始め、雇用主、移民局、専門機関などのIELTS認定機関が増加しており、受験者の英語力を正確・有効・確実に示すものとしてIELTSを信頼し、評価していることの証である。

IELTS™



(補足: IELTSは世界をリードする英語教育、言語研究機関であるIDP:IELTS Australia, Cambridge Assessment English, British Councilの3団体が共同開発したテスト)

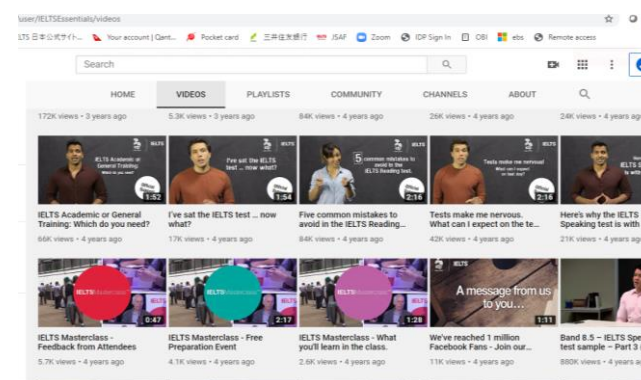
140か国、10,000以上の大学・企業・移民局で認定

最後に... <IDPとしてどう貢献していくか>

- IDPとしては、国内大学及び海外留学などでIELTSを必要としている受験生を始め、情報を必要としている高校・大学に対して引き続きサポート(※)をしていけるよう今後も努めていく
- 2020年7月現在: 札幌、東京、大阪、福岡の4都市に5つの公式テストセンターを設立し受験機会の拡大を目指す

※サポートの考え方: IELTS が受験生にとってバリヤーになるのではなく、IELTS の学習の過程の中で、出来ないことが出来るようになってほしい。そして留学等を実現して自分の夢を実現してほしい。

具体的には、IDP 日本公式サイトにて様々な試験準備・対策などのツールを紹介。無料でセミナー等を随時開催。無料IELTS オンライン・ティーチャー・プログラムを提供



参照: <https://ieltsjp.com/> (IDP 日本公式サイト)